

株式会社ユーグレナ

当社の事業概要及び 2015年9月期第3四半期業績

2015年8月

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



株式会社ユーグレナの会社紹介



株式会社ユーグレナとは

2005年12月に**世界で初めて**微細藻類ユーグレナの
屋外大量培養に成功した東京大学発ベンチャー企業。

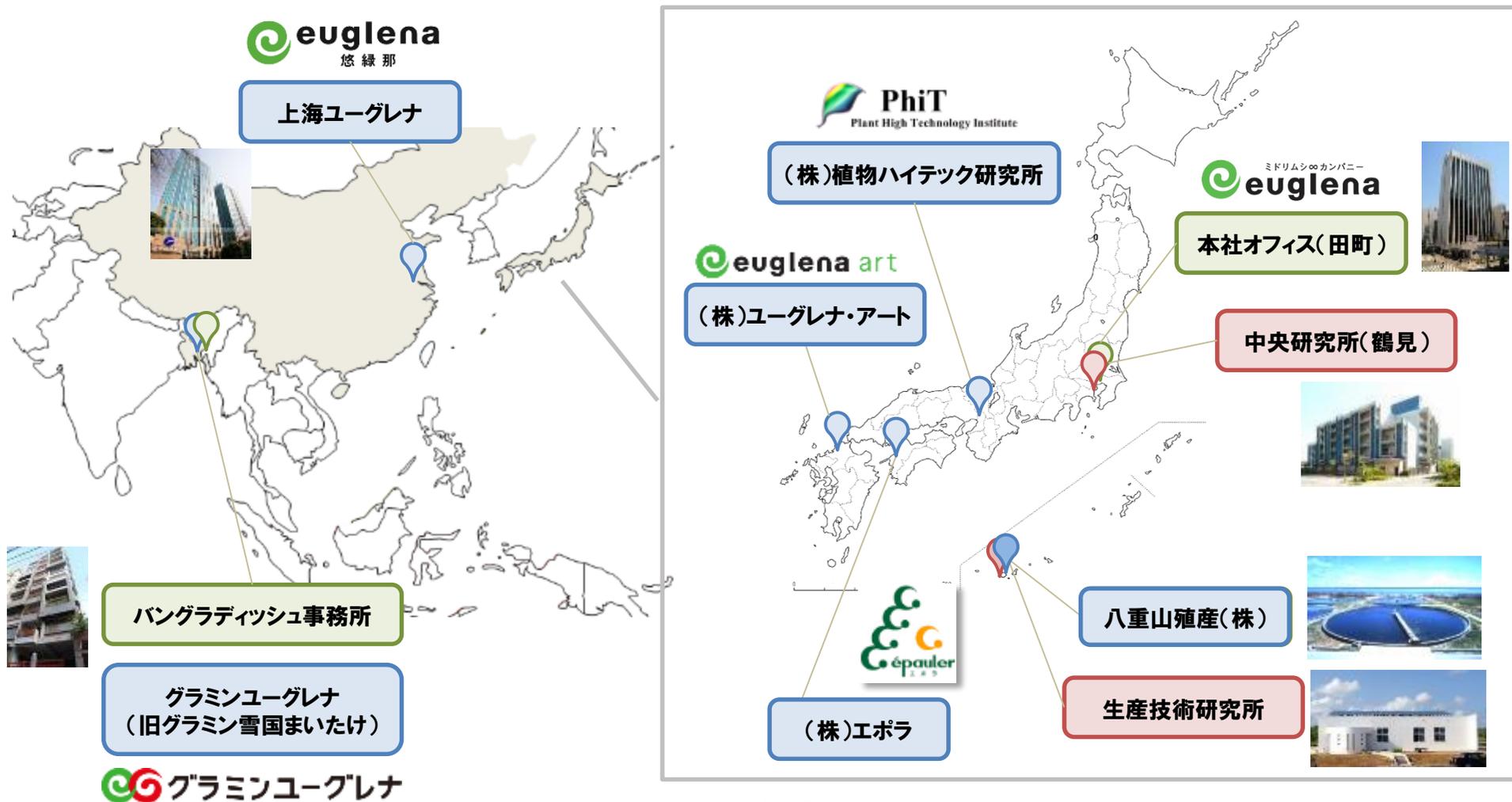
未だ、**世界で唯一**、ユーグレナの
商業大量培養を実施している企業。

会社概要

設立	2005年8月9日	
本店	東京都港区芝5-33-1	
資本金	48億2,634万円	2015年6月末
売上高	30億4,634万円	2014年9月期
従業員数	単体 90名 / 連結 130名	2015年6月末
経営理念	人と地球を健康にする	
経営 ビジョン	バイオテクノロジーで、昨日の不可能を今日可能にする	
上場市場	東京証券取引所市場第一部	
証券コード	2931	
単元株	100株	

拠点・グループ会社

主要OEM取引先のユーグレナ・アート社(2015年5月)とエポラ社(2015年9月)が当社グループに参画。上海ユーグレナも本格稼働開始



注: 緑色が当社事業拠点、赤色が当社研究拠点、青色が当社グループ会社拠点

ベンチャー企業としての高い評価

2015年1月、経済産業省「第1回日本ベンチャー大賞」にて
最優秀賞である「内閣総理大臣賞(日本ベンチャー大賞)」を受賞



2015年2月
「Financial Times ArcelorMittal
Boldness in Business wards」の
『Smaller Company』部門にノミネート



創業ストーリー

ユーグレナ研究のきっかけ

Q: 私たちは、何故ユーグレナの研究、事業化を目指したのか。

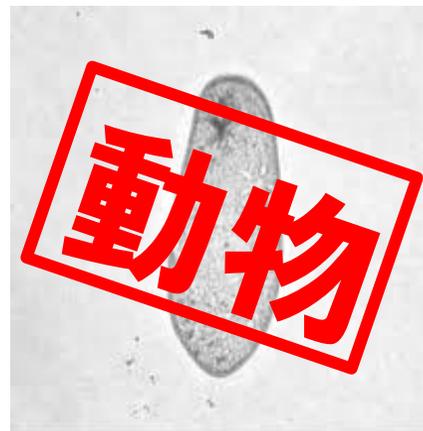


**A: 社長である出雲が大学時代に行ったバングラデシュにて
栄養失調の問題を目の当たりにし、それを解決するために
栄養豊富な食料を作ろうと考えたため。**

微細藻類ユーグレナとは

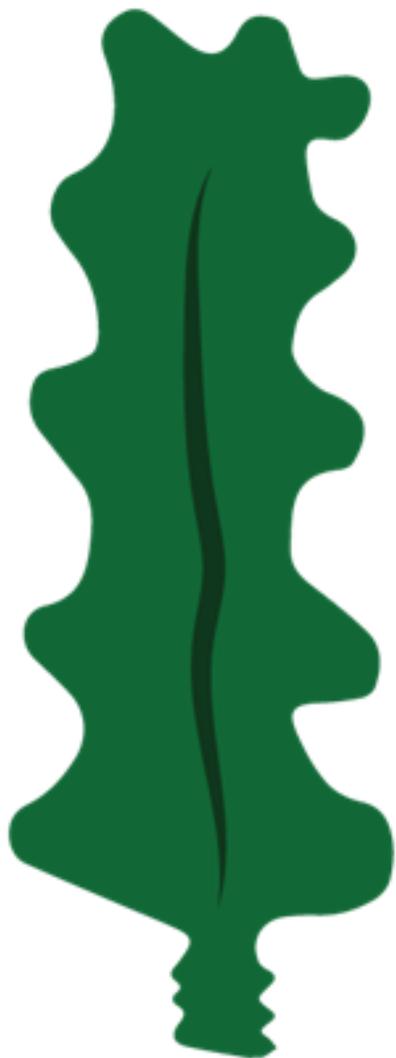


微細藻類ユーグレナとは



微細藻類ユーグレナとは

300
~
500 cm



ワカメ

ミドリムシは虫ではなく
昆布やワカメの仲間
藻の一種！



ミドリムシ

世界初、ユーグレナの大量培養技術の確立

2005年12月に世界で初めて、東京大学を中心とした藻類研究を実施する大学と連携し、ユーグレナの大量培養の技術の確立に成功



研究開発 @ 東京大学



東京大学農学部
創業メンバー



2005年当時の設備(現在は違う設備)
実証 @ 沖縄県石垣島

基本戦略ーバイオマスの5F

米の5F(例)



ご飯

重量単価
高い

Food(食料)

機能性食品



草鞋
(わらじ)

Fiber(繊維)

化粧品素材
医療用素材
化成品



飼料用米
/稲わら

Feed(飼料)

ペット用食品
配合飼料素材



稲わら堆肥
/すき込み

Fertilizer(肥料)

肥料素材



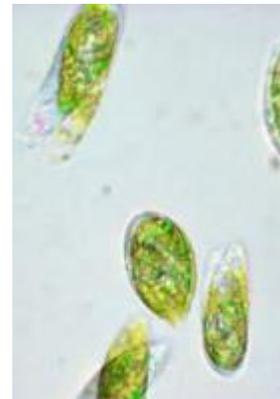
たき火
/バイオ
エタノール

Fuel(燃料)

工業用油
ジェット燃料
ディーゼル燃料

低い

ミドリムシの5F



足元の収益成長 ～ヘルスケア事業

ユーグレナ食品の強み－栄養素

59種類の栄養成分

《ビタミン》

α-カロテン ビタミンD
β-カロテン ビタミンE
ビタミンB1 ビタミンK1
ビタミンB2 葉酸
ビタミンB6 ナイアシン
ビタミンB12 パントテン酸
ビタミンC ビオチン

《ミネラル》

亜鉛
リン
カルシウム
マグネシウム
ナトリウム
カリウム
鉄
マンガン
銅

《アミノ酸》

バリン
ロイシン
イソロイシン
アラニン
アルギニン
リジン
アスパラギン酸
グルタミン酸
プロリン

スレオニン
メチオニン
フェニルアラニン
ヒスチジン
チロシン
トリプトファン
グリシン
セリン
シスチン

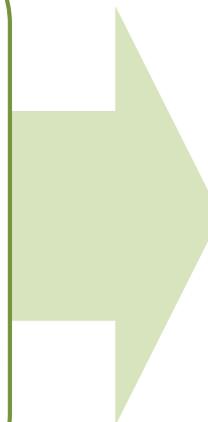
《その他》

β-グルカン
(パラミロン)
クロロフィル
ルテイン
ゼアキサンチン
GABA
スペルミジン
プトレッシン

《不飽和脂肪酸》

DHA
EPA
パルミトレイン酸
オレイン酸
リノール酸
リノレン酸
エイコサジエン酸
ジホモγ-リノレン酸
アラキドン酸
ドコサテトラエン酸
ドコサペンタエン酸

分析元：財団法人 日本食品分析センター



写真：ユーグレナ粉末

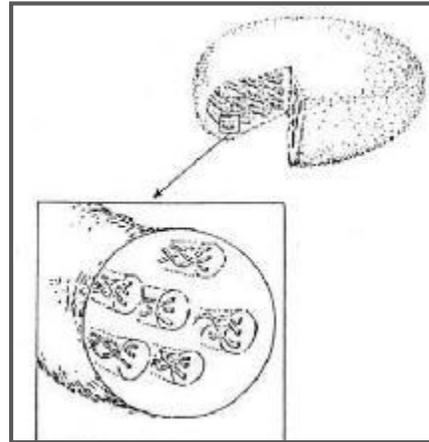
※左記の写真はイメージ

ユーグレナ食品の強みーパラミロン

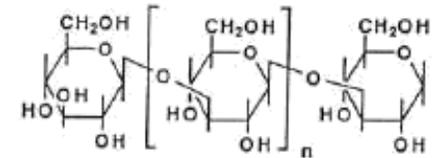
パラミロンはミドリムシしか持っていない食物繊維の一種です。吸油性に優れており難消化性であるため、吸収されずそのまま外へ排出されます。パラミロンがもつ効能もユーグレナの食品としての特徴です。



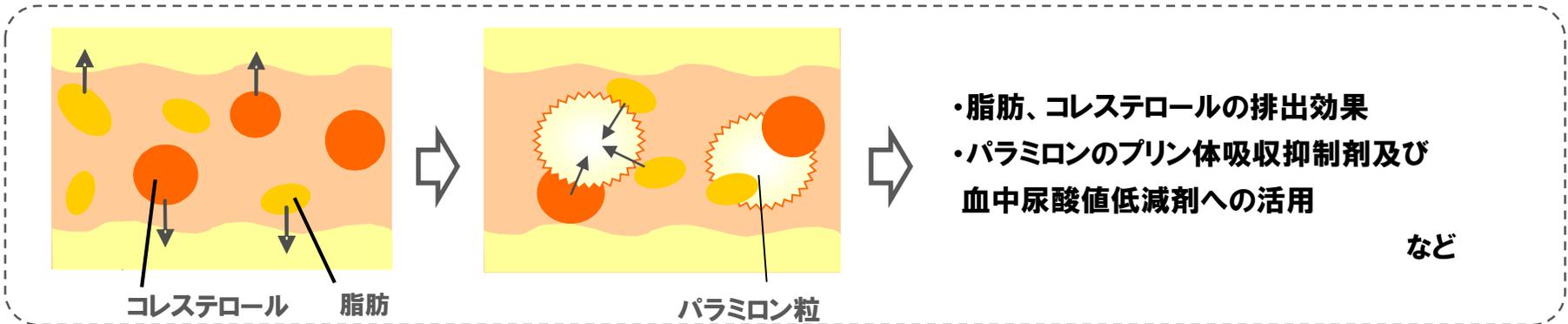
撮影：青山学院大学 福岡伸一教授



▲パラミロンの粒子構造
(Marchessault and Deslandes, 1979 より引用)

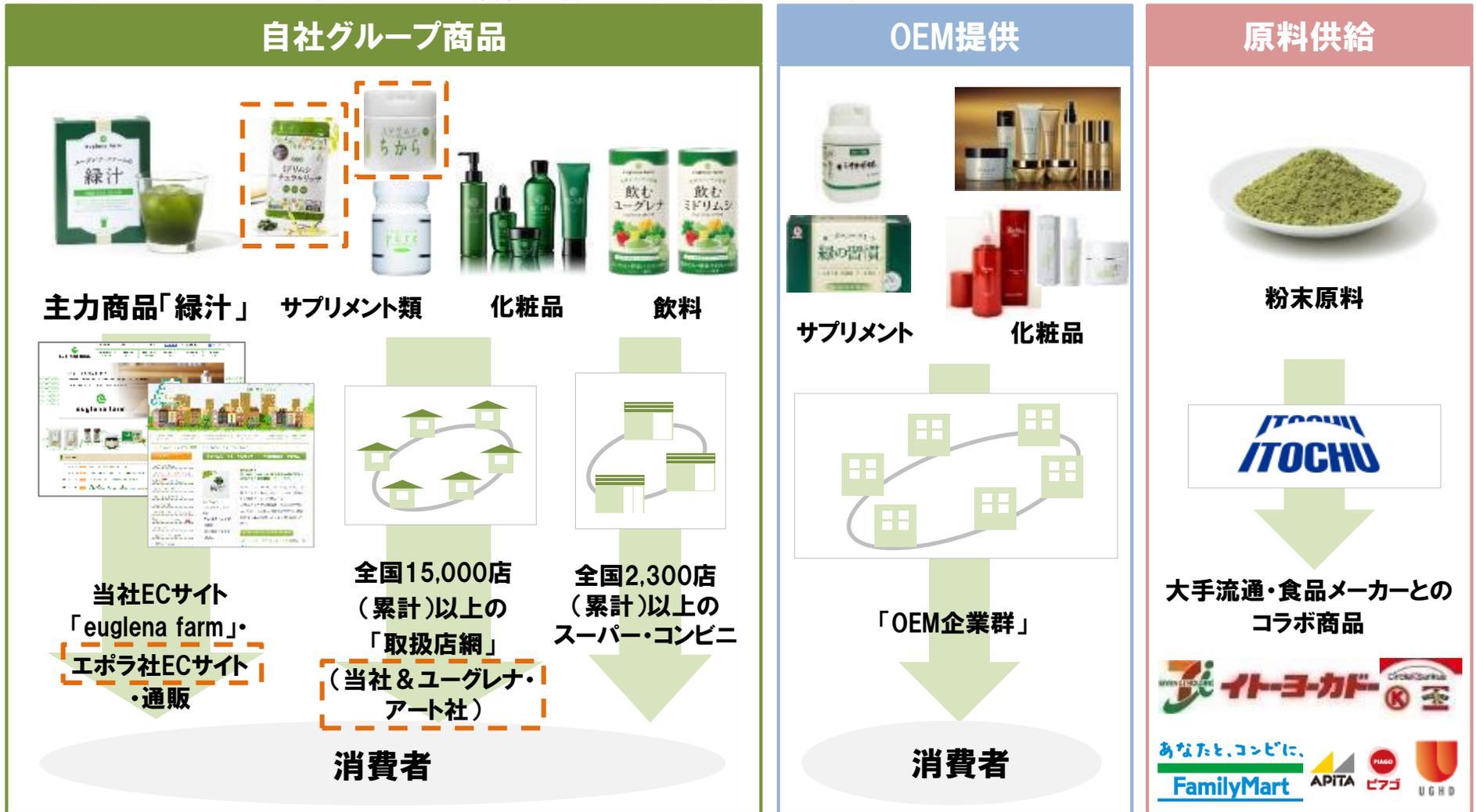


▲パラミロンの構造



ヘルスケア事業のビジネスモデル

ユーグレナ・アート社とエポラ社の当社グループ参画により、
 自社グループ製品の販売網が大幅に拡充(下図の囲み枠)

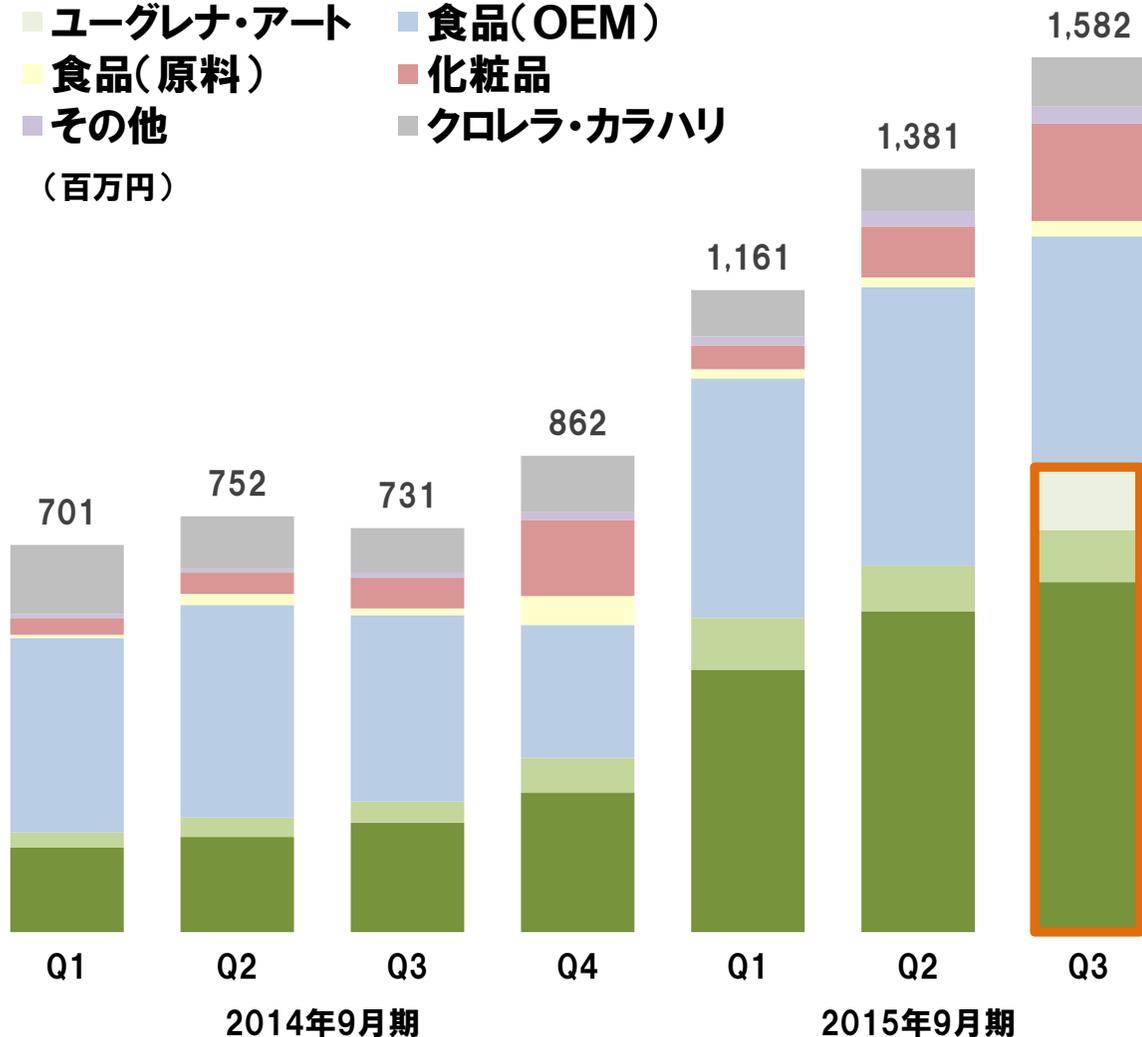


国内ユーグレナ食品事業のモデル変換に向けた取組みと今後の戦略



ヘルスケア事業の売上構造の推移

- 食品(直販)
 - ユーグレナ・アート
 - 食品(原料)
 - その他
 - 食品(流通)
 - 食品(OEM)
 - 化粧品
 - クロレラ・カラハリ
- (百万円)



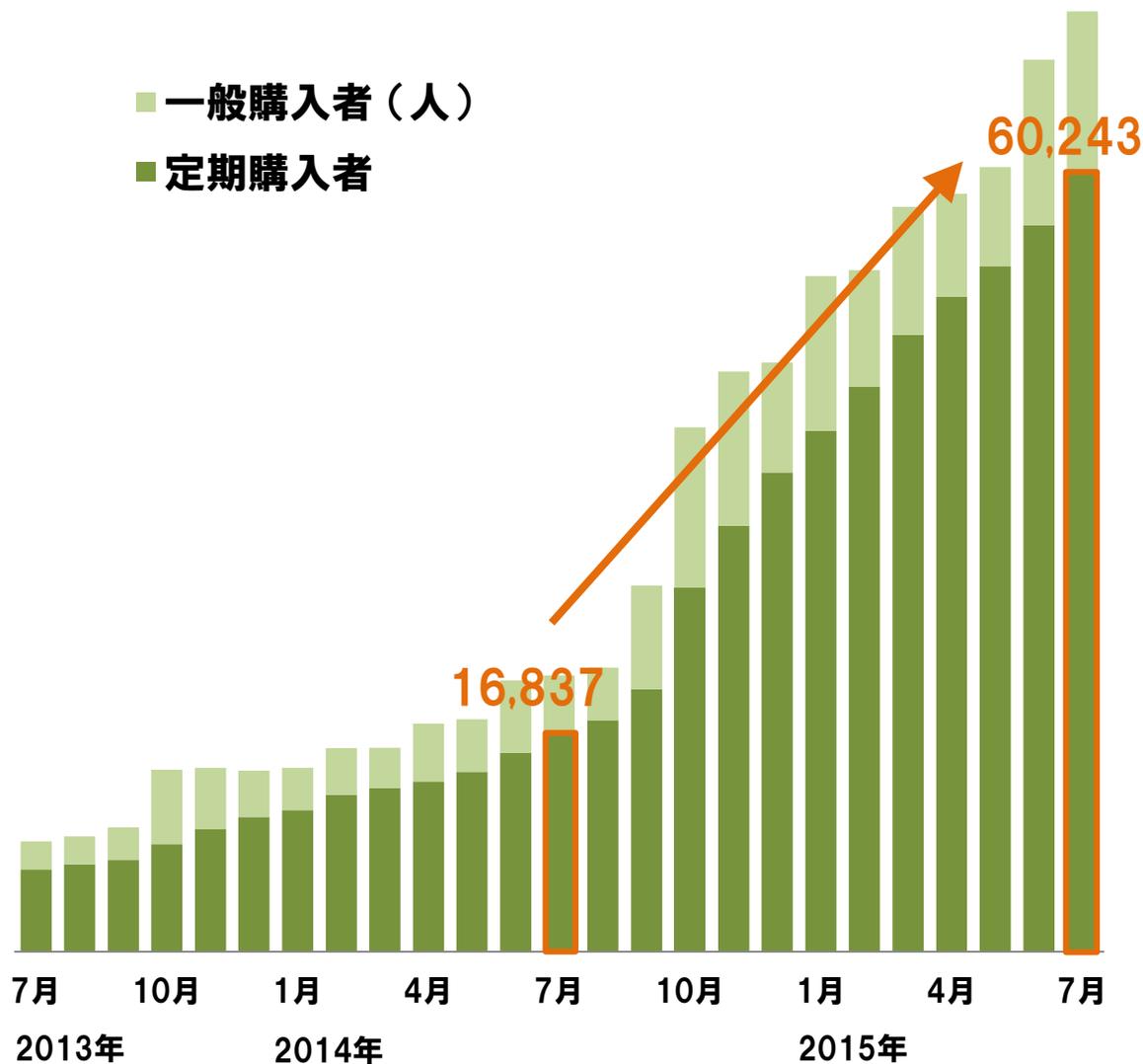
食品(直販)の売上は
前年同期比3倍

ユーグレナ・アートの
グループ参画により、
自社グループ商品
の構成比は

5割を突破

注: ユーグレナ・アート社(主要OEM取引先であった旧ユーキ社が社名変更し、旧アート・コーポレーションと合併)の業績は、株式交換が完了した2015年5月1日より当社グループの連結決算に反映されております。

食品(直販)一直販顧客数推移(2015年7月)



定期購入者数は
6万人を突破、

前年同月比
3.5倍
 に増加



注: 購入者数は「緑汁」と「ユーグレナ・プラス」が対象で、化粧品「B.C.A.D.」は含みません。

2015年7月より購入者数の算出を速報値ベースから確定値ベースに変更し、過去データに遡って修正しております。

食品(自社流通)―自社ブランド飲料「飲むユーグレナ／ミドリムシ」

2014年5月にローンチした自社ブランド飲料商品「飲むユーグレナ／ミドリムシ」の累計販売店舗数は2,300店を突破

商品名: 「飲むユーグレナ」(東日本)
「飲むミドリムシ」(西日本)
(内容は同じ)

名称: 果実・野菜ミックスジュース

内容量: 195g

価格: 259円(税込)

販売箇所: 成城石井、ナチュラルローソン、
北野エース、阪急オアシス、とりせん、
いかりスーパー、ライフ、ダイエー、
クイーンズ伊勢丹、明治屋ストアー、
サミット、オークワ
他、各地のスーパーマーケット等
(累計2,300店舗超)
および自社ECサイト「euglena farm」



東日本



西日本

食品(コラボ商品)ーフルッタフルッタとの提携

株式会社フルッタフルッタとの共同企画開発として、スーパーフード
ドリンク『赤汁』・『緑汁』を発売



商品名:	「赤汁」「緑汁」
内容量:	125g
価格:	198円(税込)
発売日:	2015年8月24日
販売箇所:	全国のスーパーマーケット 及びオンラインショップ 「euglena farm」



食品(コラボ商品)ーJR東日本グループとの連携

JR東日本駅構内などのジューススタンド「ハニーズバー」全41店舗で
新ドリンク『石垣産ユーグレナ×みやざきビタミンゴーヤー』を発売

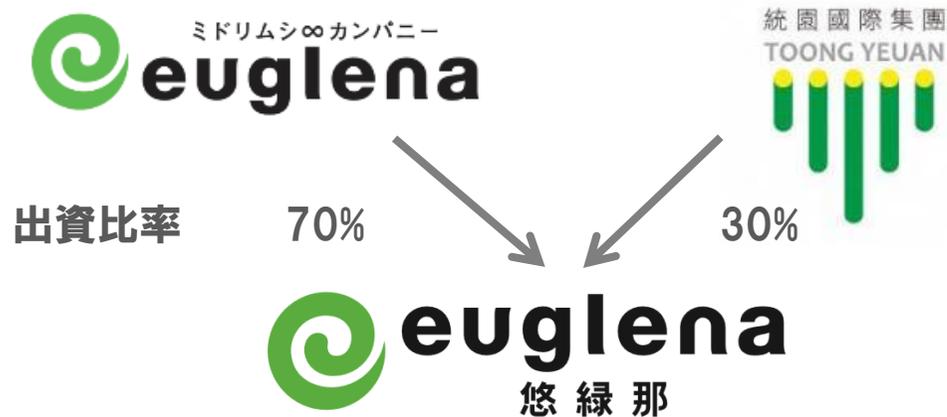
(2015/8/1~9/30まで)



ハニーズバー店舗外観(写真は東京店)

石垣産ユーグレナにビタミンCが豊富な みやざきビタミンゴーヤー、マンゴー、リンゴ、レモンなどを合わせ、野菜のさわやかさと果物の甘さが楽しめるスッキリとした味わいのドリンク

食品(海外)ー中国における子会社設立



2015年4月に
営業許可証を取得し、
6月より本格稼働開始

上海悠綠那生物科技有限公司
(上海ユーグレナ)

会社概要

所在地:	中華人民共和国 上海市
代表者	福本拓元(当社取締役、マーケティング部長)
事業内容	微細藻類ユーグレナ入り食品の販売
資本金	600 万元
決算期	12 月期
出資比率	当社 70% 統園國際有限公司 30%



上海ユーグレナのオフィス

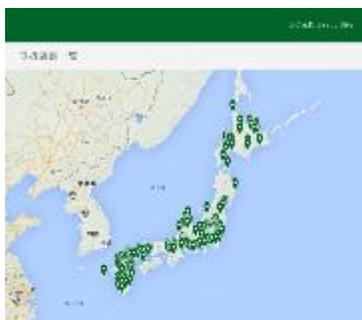
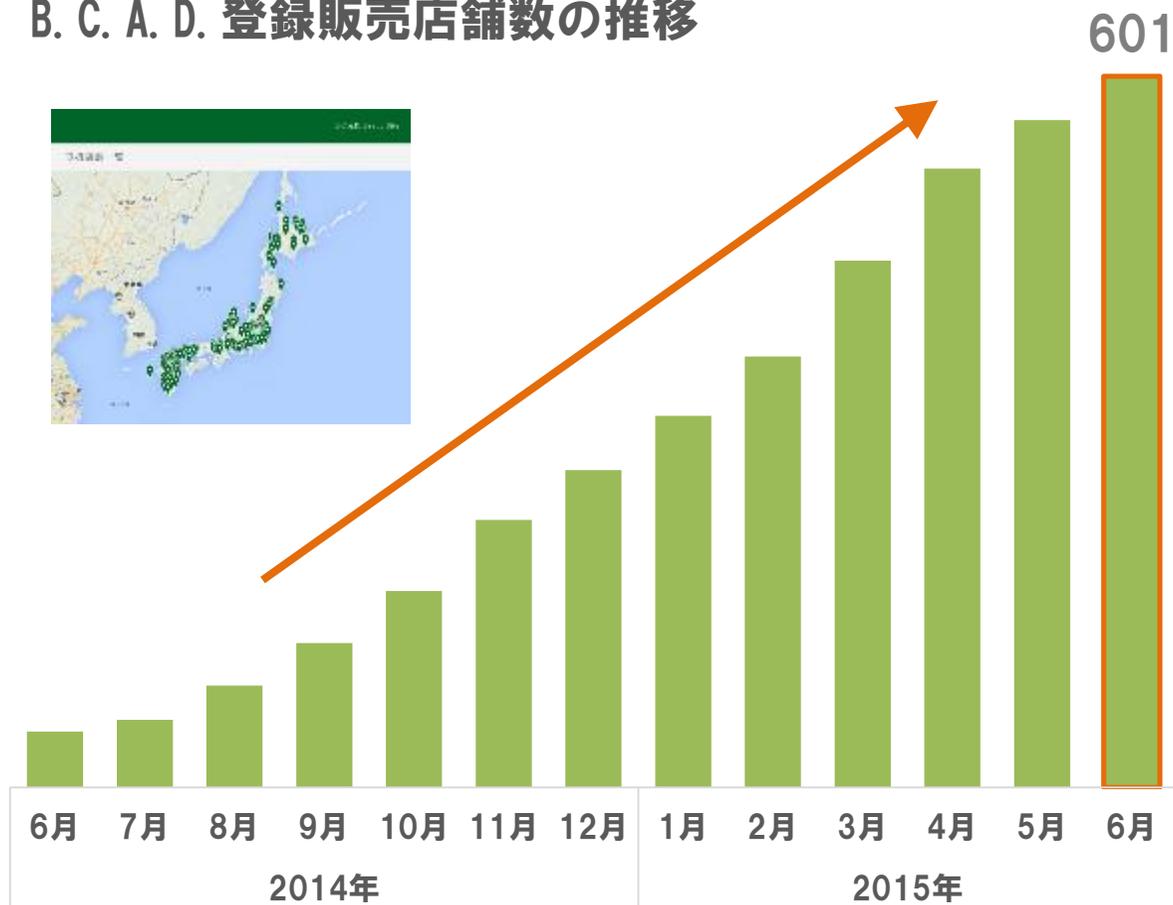


開所式に当社社長出雲も出席
(2015年7月22日)

化粧品—自社ブランド「B.C.A.D.」の売上拡大

自社ブランド「B.C.A.D.」の取扱店は累計600店舗を突破

B. C. A. D. 登録販売店舗数の推移



日本橋三越のブース(イメージ図)

将来の成長に向けた布石 ～研究開発進捗

研究開発の体制

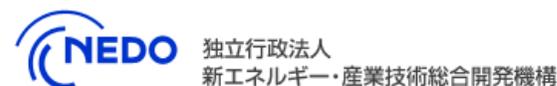
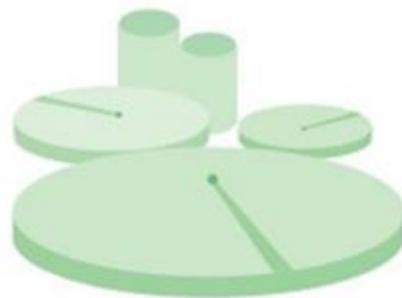
バイオ燃料の実用化及び培養技術の向上を目指し、
政府機関・民間企業と共同研究体制を構築

バイオ燃料の実用化

培養技術の向上



ミドリムシの会社



バイオジェット燃料導入に向けた官民連携コンソーシアム

「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けたバイオジェット燃料の導入までの道筋検討委員会」が発足 当社も検討会メンバーとして参画

委員会 概要

事務局: 国土交通省・経済産業省

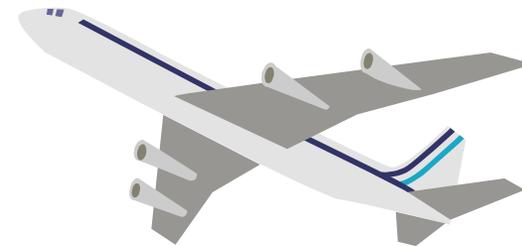
活動時期: 2015年7月に設立

活動目標: 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けたバイオジェット燃料でのフライトを実現すること

主な検討内容:

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けたバイオジェット燃料によるフライト計画
- バイオジェット燃料の供給環境整備
- 国産バイオジェット燃料生産の見通し

検討会出席者: 国土交通省、経済産業省、環境省(オブザーバー)、定期航空協会、本邦航空運送事業者、石油連盟、石油元売会社、空港内給油事業者等、NEDO、バイオ燃料開発事業者



※ 当社が参画した次世代航空機燃料イニシアティブ(INAF)は、「次世代航空機燃料のサプライチェーンの確立に向けたロードマップ」の策定をもって2015年7月に活動を終了しました。

政府支援と産学連携による研究開発

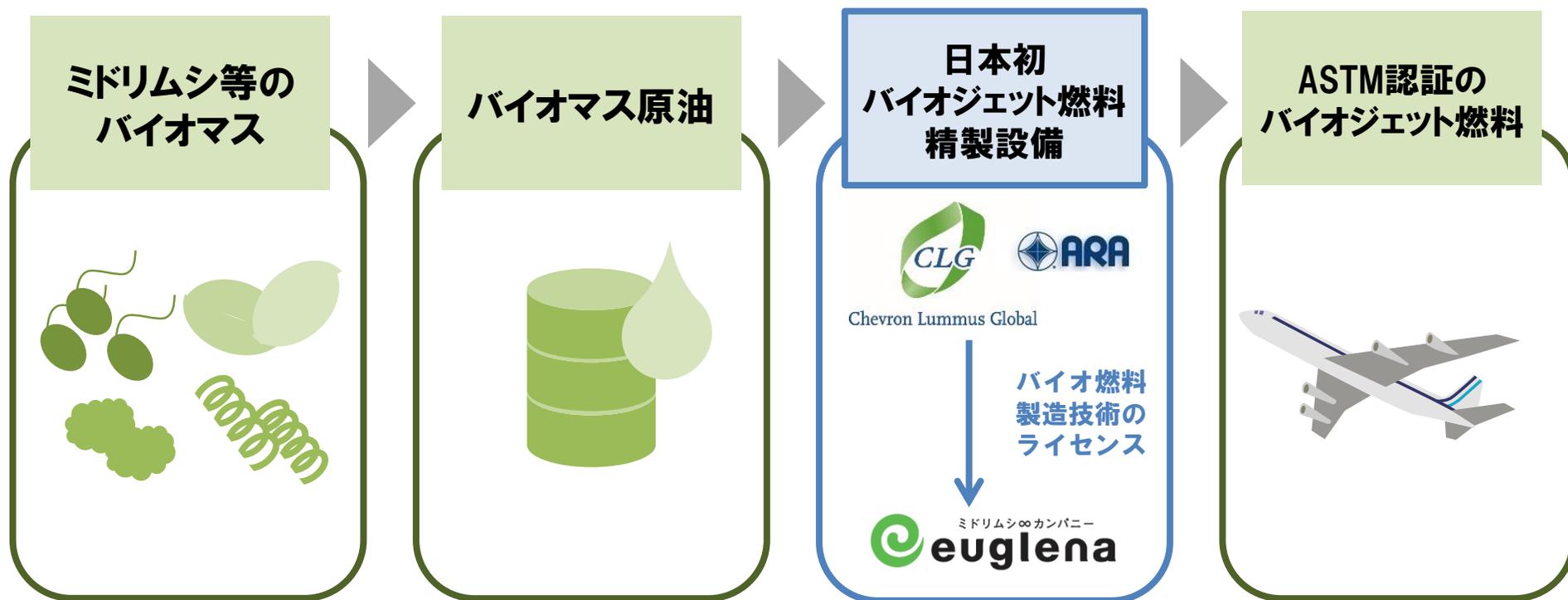
官民学パートナーシップによる共同研究に複数のテーマで参画

プログラム	テーマ	パートナー
 内閣府 Cabinet Office, Government of Japan 『革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)』	セレンディピティの計画的創出 による新価値創造	東京大学、京都大学、大阪大学、 千葉大学、慶応義塾大学、 カリフォルニア大学ロサンゼルス校、 コロンビア大学
 内閣府 Cabinet Office, Government of Japan 『戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)』	藻類からの高度不飽和脂肪酸等 の有用物質生産	独立行政法人水産総合研究センター、 国立環境研究所、東京大学、 筑波大学、(株)ヒガシマル
 独立行政法人 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency 『戦略的創造研究推進事業(CREST)』	形質転換ユーグレナによる バイオ燃料生産基盤技術の開発	島根大学、近畿大学 カリフォルニア大学サンディエゴ校(※)
 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 『国際関連事業／国際エネルギー消費 効率化等技術・システム実証事業』	随伴水、廃棄物を活用した 微細藻類生産実証事業	清水建設(株)
 国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism 『下水道革新的技術実証研究(B-DASH)』	バイオガス中のCO ₂ 分離・回収と 微細藻類培養への利用技術実証	(株)東芝、日環特殊(株)、 (株)日水コン、日本下水道事業団、 佐賀市共同研究体

(※) カリフォルニア大学サンディエゴ校はCRESTのメンバーではありませんが、本テーマにおいて当社は同校の協力を得ながら実験を行っております。

Chevron Lummus Global との基本合意契約の締結

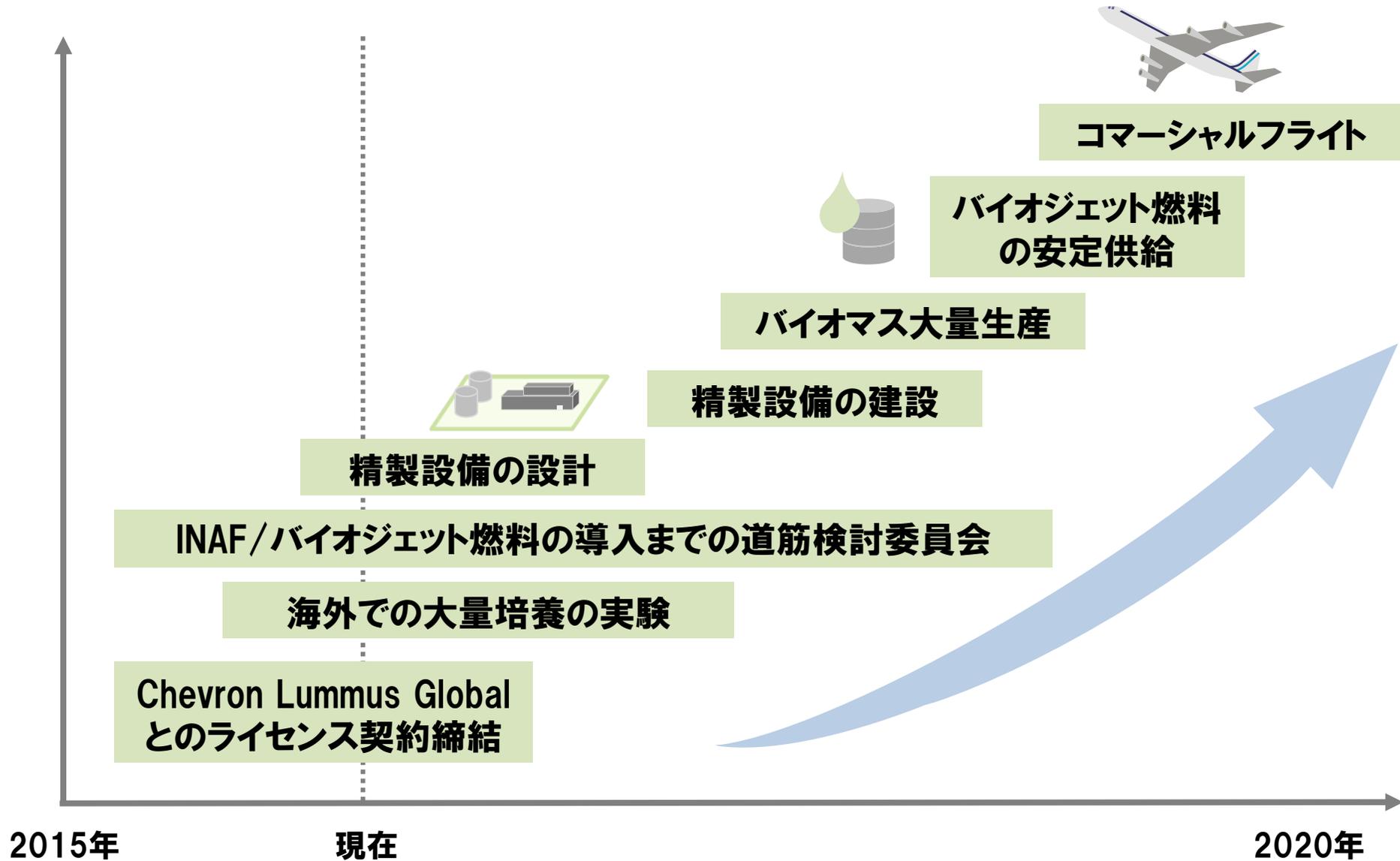
2015年5月29日、Chevron Lummus Global社とライセンス契約
及びエンジニアリング契約を締結



注： Chevron Lummus Global LLC は、米国の大手石油会社であるシェブロン社(Chevron U.S.A. Inc.)と米国のエンジニアリング・建設大手の CB&I 社(CB&I Technology Ventures, Inc.)
が設立した合弁会社で、石油精製等に関する種々プロセス技術を保有する米国ライセンサー・エンジニアリング企業です。

注： ARA 社(Applied Research Associates)は、米軍の要請により開発に成功した、高温水によるバイオ原油の精製技術および特許を保有する米国研究開発・エンジニアリング企業です。

バイオ燃料実用化に向けた取り組み



注: 上記グラフはイメージであり、定量的な計画を示すものではありません

企業理念の実現 ～バングラデシュにおける取組み

ユーグレナGENKIプログラムの進捗と事業化に向けた取り組み

今年度は約5,000人の子供達へのクッキー配布を計画

現地でのクッキー事業準備調査がJICA「BOPビジネス連携促進」に採択



実施概要

配布物:	ミドリムシ入りクッキー (1食分=6枚入り1袋、約230kcal/約50g)
実施期間:	2014年4月より、休日を除く週6日 (1日1食、期限無し)
実施場所:	ダッカ(バングラデシュの首都)のNGOが運営する小学校 ➢ 2014年度実績: 11校 ➢ 2015年8月時点: 24校
対象者/ 配布数:	上記小学校に通う児童 ➢ 2014年度実績: 約2,500人/日 ➢ 2015年5月時点: 約5,000人/日
仕組み:	当社及び協賛企業対象商品1個につき 10円を寄付
専用HP:	http://www.euglena.jp/genki_program/



2014年第一回協力準備調査
(BOPビジネス連携促進)

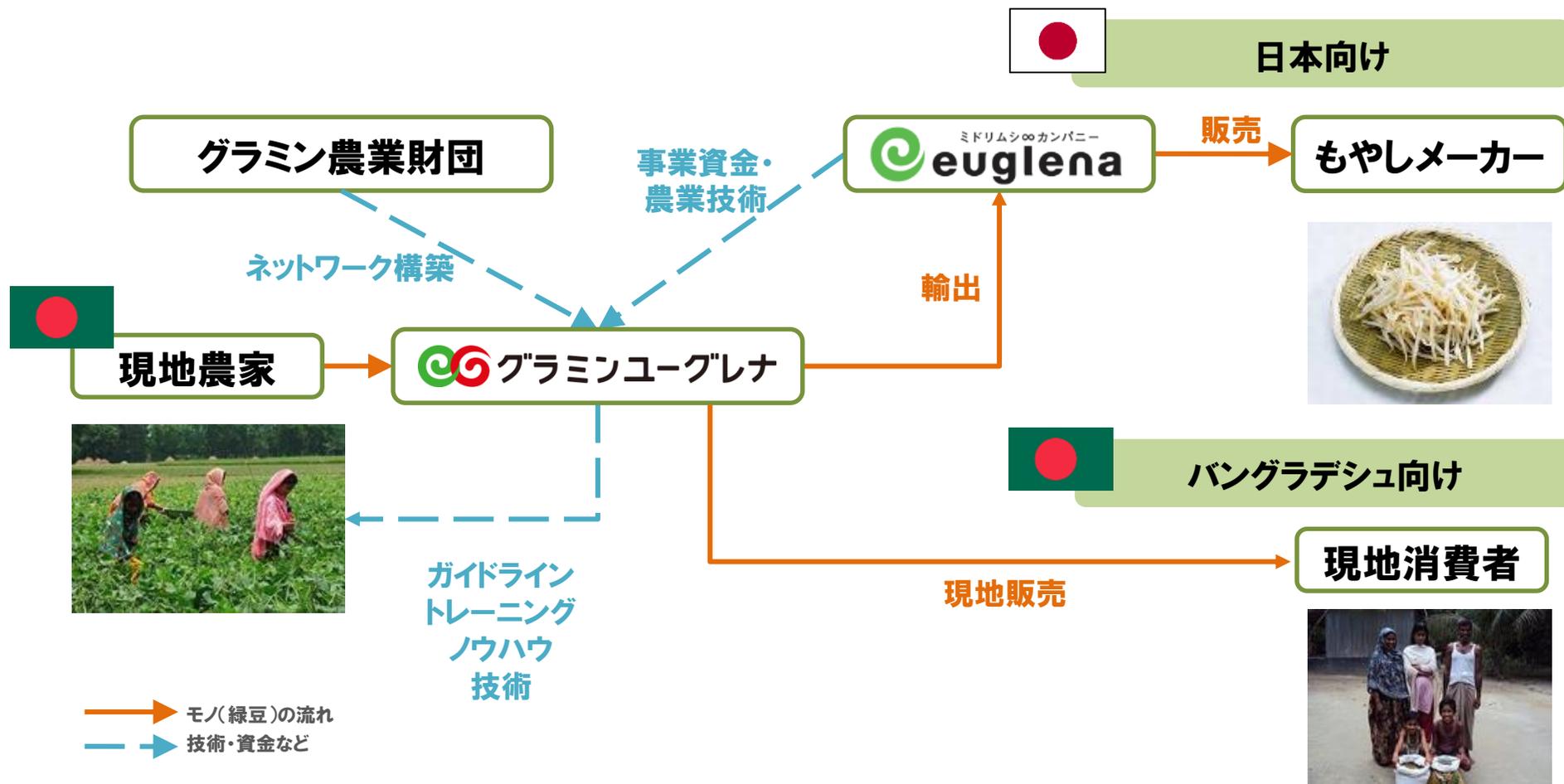
実施概要

事業名:	ユーグレナ・クッキー事業準備調査
実施地:	バングラデシュ人民共和国
テーマ:	貧困層層(BOP)・中所得層(MOP)を対象としたユーグレナ・クッキー等のユーグレナ入り食品の商業化の可能性の調査
調査内容:	・クッキー市場規模と将来性の調査 ・BOP、MOP層の各層ニーズ調査 ・商品開発と販売テスト
実施期間:	2015年4月から 2017年3月までの2年間



Bangladeshにおける緑豆プロジェクト

Bangladeshで育てた緑豆を、同国内で販売すると共に日本に輸出
 2015年4月には日本のもやしメーカー向けの販売を実施



(※)「グラミンユーグレナ」は Bangladesh人初のノーベル平和賞に輝いたムハマド・ユヌス博士率いるグラミングループと、「人と地球を健康にする」ことを理念に持つユーグレナ社の合併企業の通称です。

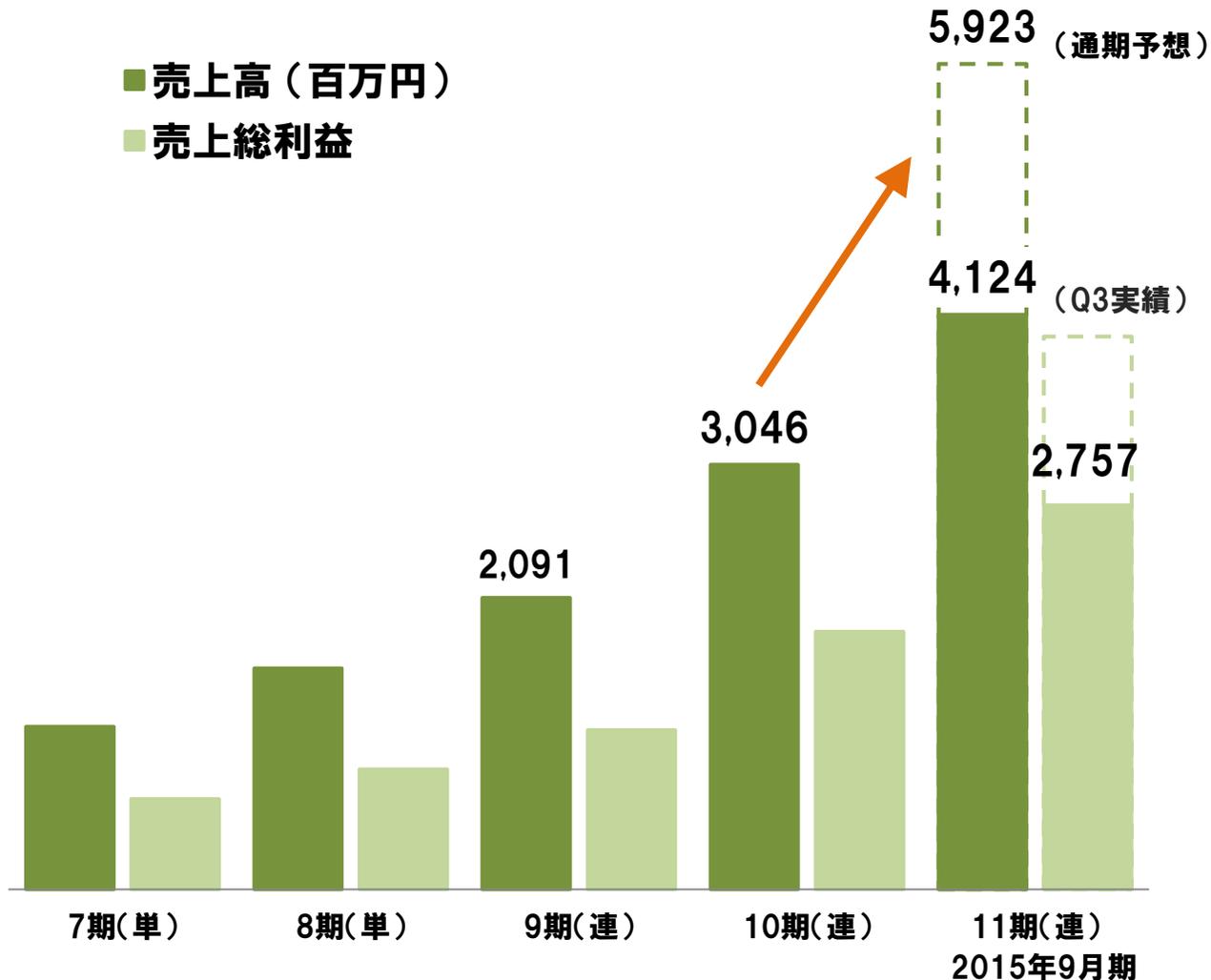
**2015年9月期
第3四半期決算概要**

2015年9月期(第11期)の連結業績予想

販管費の大幅削減および助成金収入の確定を踏まえ、通期利益予想を上方修正

(百万円)	2014年9月期 実績	2015年9月期 業績予想 (前回)	2015年9月期 業績予想 (今回)	対前回予想 増減率
売上高	3,046	5,923	5,923	—
営業利益	142	258	323	+25.2%
経常利益	191	384	536	+39.6%
当期純利益	118	235	344	+46.4%

業績推移—売上高、売上総利益

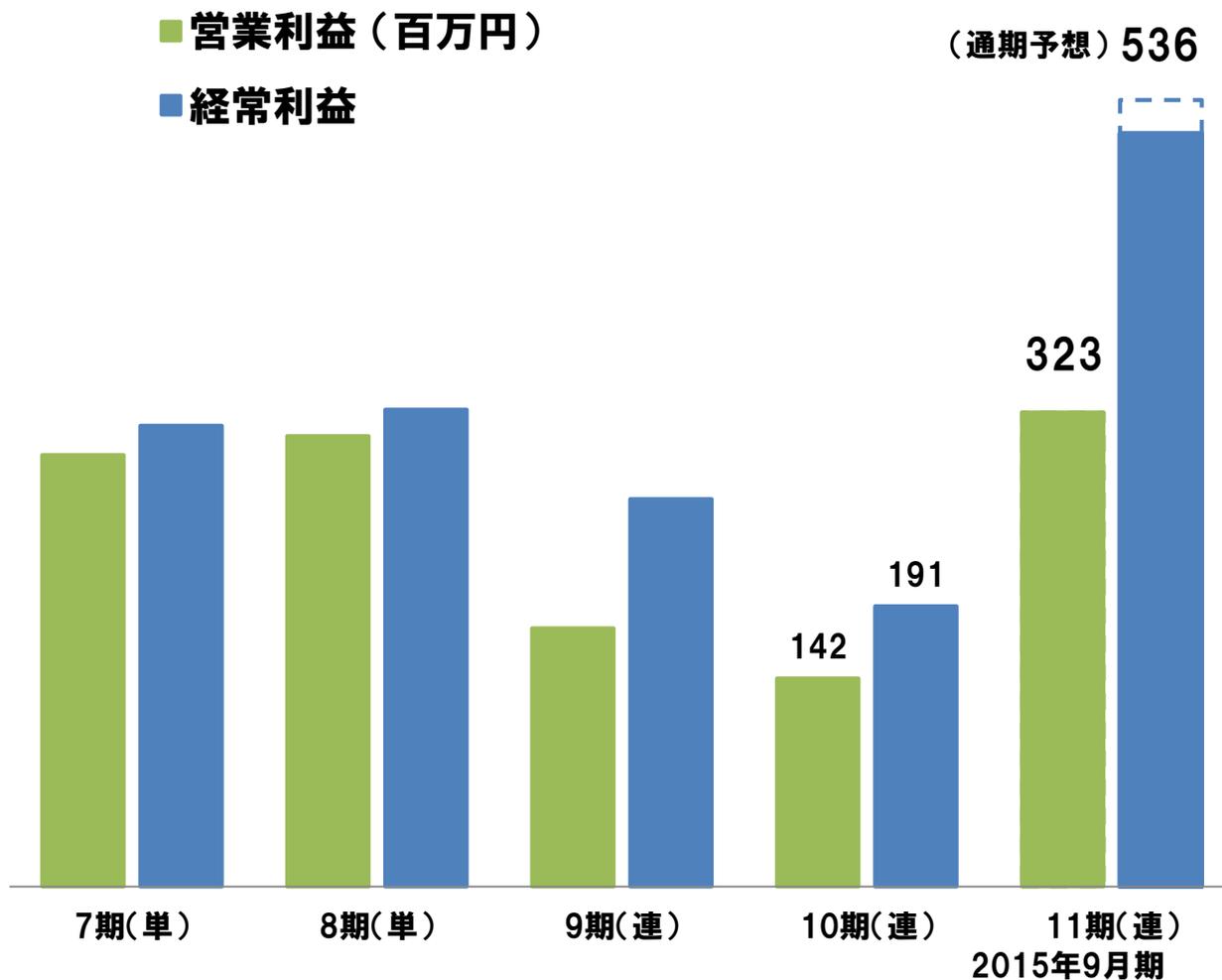


売上高は
前年比倍増
に向けて
順調に進捗

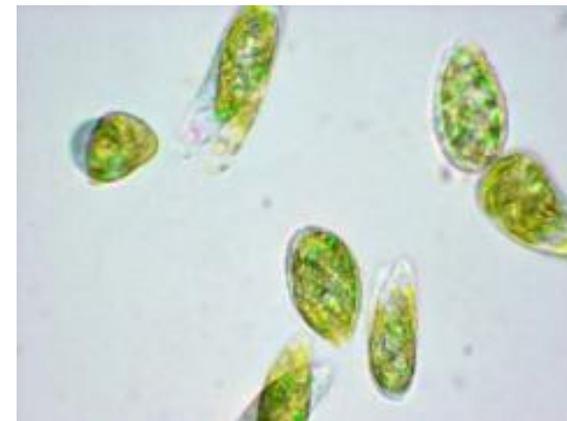


注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。

業績推移—営業利益、経常利益



**第4四半期は
広告宣伝・研究開発
への成長投資を優先**



注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。

バイオテクノロジーで昨日の不可能を今日可能にする。

